

- 問1 18世紀初頭の日本の農業生産において、全体としては田の面積が畑の面積を上回る中で、例外的に畑の面積の方が広がった地域はどこですか。  
(2026年 大阪公立入試 類似)
1. 関東地方 2. 九州地方 3. 東北地方 4. 近畿地方
- 
- 問2 関東地方の北西部に位置し、東経140度の経線が通過する県の一つである群馬県について、県名と名称が異なる県庁所在地として正しいものを選択してください。なお、隣接する中部地方の県庁所在地と混同しないよう注意が必要です。  
(2022年 香川公立入試 類似)
1. 前橋市 2. 高崎市 3. 甲府市 4. 長野市
- 
- 問3 1960年代から開発が始まった大阪府の千里ニュータウンにおいて、2007年に30歳代だった人口が、10年後の2017年には40歳代となって約3000人増加しているという統計結果があります。このような、特定の年齢層の人口が10年間のうちに増加した背景として、最も適切な説明を選びなさい。  
(2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 老朽化した集合住宅の建て替えや再開発が進み、かつてニュータウンで育った世代が子育て層として再び流入したため。  
2. ニュータウン内に大規模な工場や工業団地が新たに誘致され、周辺地域から多くの労働者が移り住んだため。  
3. 都心の地価が下落したことで、ニュータウンから都心部のマンションへ住み替える高齢者が急増したため。  
4. 公共交通機関の整備が遅れたため、自家用車を利用する若年層のみがニュータウンの周辺部に集まったため。
- 
- 問4 関東地方に位置する群馬県の農業において、統計上の農業産出額で野菜や畜産の占める割合がコメに比べて非常に高くなっている理由として、最も適切な説明はどれですか。  
(2017年 神奈川県公立入試 類似)
1. 高速道路網などを活用して、近隣の大消費地へ鮮度の高い野菜や畜産物を供給する近郊農業や輸送園芸農業が発達しているため  
2. 広大な平野部を利用した大規模な機械化によって、輸出を目的とした小麦やコメの生産に特化した農作業が行われているため  
3. 冷涼な気候を活かした稲作が中心であり、他の関東地方の県に比べてコメのブランド化による収益が野菜を上回っているため  
4. 土地が痩せていて稲作が全く不可能なため、県内の全ての農地を牧草地やビニールハウスに転換し、畜産と野菜のみを生産しているため
- 
- 問5 群馬県北部の険しい山地から関東平野にかけて急激に標高が低くなる地形的特徴は、この地域の冬の気候にどのような影響を与えていますか。その仕組みとして正しいものを選択してください。  
(2024年 岡山公立入試 類似)
1. 北部の高い山を越える際に水分を失った冷たく乾燥した季節風が、標高の低い平野部に向かって強く吹き下ろす  
2. 山地が低く平野部との標高差がないため、海からの湿った空気が遮られずに山まで届き、平野部全体に大雪をもたらす  
3. 南東から吹く温暖な風が北部の高い山々に突き当たることで、関東平野の全域で冬でも気温が下がらず上昇し続ける  
4. 平野部が山地よりも標高が高くなっているため、山を越えてきた風が平野の手前で上昇気流となり、常に無風状態となる
- 
- 問6 千葉県の産業や人口の特色について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものを次から選びなさい。  
(2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 人口が多く、第3次産業の割合が高いとともに、農業産出額と製造品出荷額がともに全国平均を上回っている。  
2. 日本海側の気候を活かした稲作が盛んで農業産出額は高いが、人口および第3次産業の割合は全国平均を下回っている。  
3. 観光業が産業の中心であるため第3次産業の割合は非常に高いが、製造品出荷額や農業産出額は全国平均に及ばない。  
4. 古くからの文化財が多く観光客は多いが、大規模な工業地域を持たないため、製造品出荷額は全国平均を下回る。
- 
- 問7 関東地方の東京都のような巨大な消費地の周辺において、移動距離の短さを活かし、鮮度が重要となる野菜や鶏卵などを生産・出荷する農業の形態を何といいますか。  
(2026年 福島公立入試 類似)
1. 近郊農業 2. 促成栽培 3. 抑制栽培 4. 施設園芸農業
- 
- 問8 東京都中央区のように、かつて地価の高騰などにより人口が減少していた大都市の中心部において、1990年代半ば以降、再開発によって高層マンションが建設されたことで再び人口増加が見られる現象を何といいますか。  
(2020年 岐阜公立入試 類似)
1. ドーナツ化現象 2. 過密化 3. 都心回帰 4. スプロール現象
- 
- 問9 近年の東京都における人口動態について、出生数と死亡数の差である「自然増加率」と、転入者数と転出者数の差である「社会増加率」を比較したとき、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。  
(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 社会増加率が自然増加率を一貫して上回っており、他地域からの人口流入が人口増加の主因となっている。  
2. 自然増加率が社会増加率を上回っており、主に子どもの誕生によって人口が増え続けている。  
3. 自然増加率と社会増加率がほぼ等しい割合で推移しており、バランスの取れた人口増加が続いている。  
4. 社会増加率はマイナスであるが、自然増加率がそれを補うほど高いため、全体の人口は増加している。
- 
- 問10 関東地方北部に位置するある県は、統計資料において住宅用太陽光発電機器の設置割合が全国上位8都県に含まれています。この資料が示している栃木県の県庁所在地として正しいものはどれですか。  
(2023年 秋田県公立入試 類似)
1. 宇都宮市 2. 前橋市 3. 水戸市 4. 高崎市
- 
- 問11 群馬県大泉町の公共施設の案内やウェブページでは、日本語や英語に加えてポルトガル語による表記が積極的に取り入れられています。このような取り組みが行われている背景として最も適切な理由はどれですか。  
(2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 町内に多く居住するブラジル人などの外国籍住民が、日常生活をより生活しやすいようにするため  
2. 海外からの観光客を積極的に誘致し、地域の観光消費額を増加させるため  
3. 町内の日本人が、多くの外国語に接することで国際的な語学力を向上させるため  
4. 海外のIT企業を工業団地に誘致し、最先端の技術を取り入れる環境を整えるため
- 
- 問12 近年の関東地方において、長年続いてきた都心への一極集中に対し、一部で見られる「分散」の動きの背景として、最も関係が深い事柄を選びなさい。  
(2022年 長野県公立入試 類似)
1. 情報通信技術の活用によるテレワークの普及 2. 都心部における大規模な工業団地の造成 3. 交通網の遮断による物理的な移動の制限 4. 農業における労働環境の悪化と離農者の増加
- 
- 問13 東京都の昼間人口比率が100を大きく超え、全国で最も高い数値を示す背景には、どのような都市構造や社会現象が関係していますか。周辺の県との関わりを踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。  
(2019年 和歌山公立入試 類似)
1. 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため  
2. 都心部に広大な農業用地が確保され、周辺県から季節労働者が大量に流入するようになったため  
3. 東京都の夜間人口が周辺県に比べて急激に減少したことで、相対的に昼間の活動人口が目立つようになったため  
4. 周辺県の産業が衰退したことにより、すべての住民が東京都内に移住して夜間人口が急増したため

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 関東地方	江戸時代中期の土地利用状況を地方別に比較すると、多くの地域で米を作るための「田」が優先的に確保されていましたが、関東地方だけは「畑」の面積の方が広がっていました。九州地方などで畑作が盛んなイメージを持つ受験生も多いですが、当時の統計上の面積比較において、畑が田を上回るという逆転現象が起きていたのは関東地方であるという点が重要な特徴です。
問2	答え 1 前橋市	群馬県の県庁所在地は前橋市です。同じ県内の主要都市である高崎市と混同しやすいほか、隣接する山梨県の県庁所在地である甲府市（中部地方）や、長野県の長野市（中部地方）といった近隣県の名称との区別も重要です。関東地方において県名と県庁所在地名が異なるのは、茨城・栃木・群馬・神奈川の4県です。
問3	答え 1 老朽化した集合住宅の建て替えや再開発が進み、かつてニュータウンで育った世代が子育て層として再び流入したため。	千里ニュータウンなどの初期に開発された地域では、入居から長い年月が経過して住民の高齢化が進みましたが、近年では団地の建て替えやマンション分譲といった再開発が活発に行われています。その結果、ニュータウンで育って一度は外に出た世代が、自身の結婚や子育てを機に戻ってくる「再流入」という現象が起きています。統計上、10年前に30歳代だった層が、そのまま40歳代になった際に人数が増えているのは、この再流入によって特定の年齢層が補填・増加されたことを示しています。
問4	答え 1 高速道路網などを活用して、近隣の大消費地へ鮮度の高い野菜や畜産物を供給する近郊農業や輸送園芸農業が発達しているため	群馬県は、東京などの大都市圏に近いという地理的条件（市場近接性）を最大限に活用しています。キャベツなどの高原野菜や、豚・乳牛などの畜産業は、輸送距離が短いほど鮮度が保たれ、コストも抑えられるため、コメよりも収益性の高い野菜や畜産に力を入れる農業構造が定着しました。
問5	答え 1 北部の高い山を越える際に水分を失った冷たく乾燥した季節風が、標高の低い平野部に向かって強く吹き下ろす	北側の険しい山地は、冬の湿った季節風を遮る壁の役割を果たします。水分を雪として山側に落とした風は、乾燥して軽くなり、標高差の大きい関東平野へと一気に吹き下ろしてきます。これが「からっ風」と呼ばれる強い北風の正体であり、山地から平野へと急激に標高が下がる断面図のような地形構造が、この気象現象を発生させています。
問6	答え 1 人口が多く、第3次産業の割合が高いとともに、農業産出額と製造品出荷額がともに全国平均を上回っている。	千葉県は首都圏の一角として膨大な人口を抱えており、第3次産業有業者割合が高いのが特徴です。産業面では、京葉工業地域による工業生産と、全国有数の農業産出額を両立させており、面積が全国平均に近い中で、これほど多角的に高い指標を示す県は全国的にも珍しい存在です。
問7	答え 1 近郊農業	大都市の周辺という立地条件を最大限に活用した農業形態です。消費者に近い場所で生産することで、収穫から店頭までまでの時間を短縮できるため、鮮度が品質に直結する生鮮野菜や卵などの生産が盛んに行われています。
問8	答え 3 都心回帰	東京都中央区などの都心部では、バブル経済期まで地価の高騰によって居住者が郊外へ流出する傾向にありましたが、1990年代後半から地価が安定し、工場跡地などを利用した再開発が活発になりました。その結果、利便性の高い高層マンションが供給され、職住接近を求める世帯が再び中心部に住むようになったことで、人口が急激に回復する「都心回帰」が起きています。
問9	答え 1 社会増加率が自然増加率を一貫して上回っており、他地域からの人口流入が人口増加の主因となっている。	東京都の人口増加の構造は、出生と死亡の差による「自然増加」よりも、進学や就職に伴う他県からの転入超過による「社会増加」の寄与が極めて大きいのが特徴です。多くの地方自治体で人口減少が課題となる中、東京都は利便性や雇用機会を背景に、全国から継続的に人口を吸収し続けています。
問10	答え 1 宇都宮市	栃木県は北関東の内陸部に位置し、日照時間が比較的長いことなどから住宅用太陽光発電機器の普及が進んでいます。栃木県の県庁所在地は宇都宮市です。選択肢にある前橋市は群馬県、水戸市は茨城県の県庁所在地であり、北関東3県の名称と位置、県庁所在地はセットで覚えるのが地理学習の基本です。
問11	答え 1 町内に多く居住するブラジル人などの外国籍住民が、日常生活をより生活しやすいようにするため	群馬県の大泉町は製造業の工場が多く、1990年の出入国管理法の改正以降、労働力として来日したブラジル人などの外国籍住民が多く居住しています。行政がポルトガル語を併記するのは、観光客の誘致ではなく、地域住民として定住している外国人が行政サービスや生活情報を得やすくし、共に暮らす「多文化共生」を実現することが目的です。
問12	答え 1 情報通信技術の活用によるテレワークの普及	長らく東京都心部への人口集中が続いてきましたが、近年はインターネット環境の整備に伴い、職場に出勤せず自宅などで仕事をするテレワークが普及しました。これにより、必ずしも都心に住む必要がなくなったため、住居を郊外や自然豊かな地方へ移す「分散」の動きが見られるようになってきました。これは一極集中の緩和につながる新しい変化として注目されています。
問13	答え 1 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため	都市の過密化や地価の高騰により、人々の居住機能が郊外の「ベッドタウン」へと移転しました。一方で、オフィスや学校などの都市機能は都心部に集中したままであるため、昼間だけ都心へ移動し、夜間は郊外の自宅へ帰るといった「職住分離」が進展しました。この構造的な要因により、東京都の昼間人口比率は100を大きく上回る状態が続いています。